

課題対応取組み報告書

名称	大淀地域総合相談窓口					
提出日	令和6	年	6	月	3	日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等			
活動テーマ	早期相談出来る地域との関係づくりとランチの周知活動を行う				
地域ケア会議から 見えてきた課題	・ひとり暮らし高齢者世帯の割合が高く、ご近所付き合いもない為、認知症や病氣、困り事に気づく事が難しく、自らの訴えも少ない。よって状況に気づいた時には悪化しているケースが多い。 ・家族関係が希薄となり、後見人制度が必要なケースが増加しているが、本人や周囲への理解が得られず繋がるまでに時間を要する。				
対象	中津、大淀西・東地域に在住の高齢者				
地域特性	【中津】：大阪駅まで徒歩圏内にある。Mの地下鉄、市バス、阪急もあり交通の利便性は良い。近年は商店街の活性化が進んでおり、若年層世帯も増加している。一方では長屋も多く昔から、住み続けている住民も多い。地域活動が活発な地域で世代間交流も活発である。 【大淀東】：梅田、福島に隣接しており、スカビルを中心に企業が多く集まっている。「うめきた再開発」や「ターマシヨ」の建設により様々な世代が転入している。 【大淀西】：昔からの印刷業が栄えていた街並みで買い物等、福島区を拠点とする人が多い。地域活動は活発で住民同士の繋がりは強い。				
活動目標	・地域包括支援センター（以下「包括」という）・総合相談窓口（ランチ）（以下「ランチ」という）の機能の周知及び情報提供を行う。 ・地域住民との繋がりを大切にし、顔の見える関係作りを構築する事で相談の早期発見、解決に努める。 ・他の関係機関との連携を深め相談の窓口を広げていく。				
活動内容 (具体的取組み)	・地域住民からの直接の相談においては主に介護保険制度に関する事が多くあった。大阪市のホームページを利用し、複雑な制度をわかりやすく説明する事を心がけ、関係機関へと繋いだ。 ・大淀西地域活動協議会主催の百歳体操後の「歩行分析＆お勤めの運動紹介会」を開催 令和5年10月～令和6年3月まで計6回実施（1回は6名程度） ・大淀東地域の「大淀北住宅集会所」の活用の一貫として北区社会福祉協議会の見守り相談室と連携し「なんでも相談会」北住宅の住民向けに開催：令和5年11月19日 ・大淀東地域の認知症カフェ「ほっと一息ひだまりカフェ」に施設入居者に来て頂き焙煎コーヒーを温かい雰囲気空間で飲んで頂く。：令和6年2月より実施(以後、月1回ペースで継続予定)				
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・介護保険サービスに繋ぐ事により、在宅生活を継続する事が出来、介護をしている家族の負担軽減にも繋がっている。又、ケアマネジャーに繋ぐ事で身近な相談窓口が出来、不安軽減にも繋がっている。 ・地域の定期的な活動に共に参加することにより、身近な相談窓口がある事を再認識してもらうことが出来た。 また、コロナによりしばらく行っていなかったが、認知症カフェに施設の入居者の参加が再開された。入居者は毎月1人から2人程度ではあるが、地域住民が認知症について積極的に勉強したり、認知症の人の社会参加を応援しているような「温かい空間」が出来つつある。				
今後の課題	・今後は社会福祉法人として地域の活動に関わりを持ち、「地域貢献」を引き続き継続していく。 ・大淀東地域の認知症カフェへの参加を継続することで認知症になっても、施設に入っても地域で楽しめる居場所がある事を地域住民に周知して頂く機会を作る。				
※以下は、区運営協議会事務局にて記入					
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 6 年 7 月 1 6 日 (火)				
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☐ 浸透性・拡張性 ☐ 専門性 ☒ 独自性				
評価できる項目（特性） についてのコメント	ブランチ担当者が新たに変わったが、身近な相談窓口としてランチが認識してもらえるよう、地域の定期的な活動に参加し、ランチ活動の周知啓発に励んだ。 地域と法人のデイサービスとの協働により、AIを使った歩行分析・お勤めの運動紹介会という住民の興味を引く独自の取組みを行ったことも評価できる。 今年度よりランチとしての活動は休止となったが、法人として引き続き地域活動にもご尽力いただきたい。				
* 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。					

課題対応取組み報告書

名称	梅田東地域総合相談窓口			
提出日	令和6	年	6	月 1 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	実態把握・早期発見のための多機関を含めたネットワーク構築	
地域ケア会議から 見えてきた課題	・認知症高齢者や身寄りのないひとり暮らし高齢者が孤立した状態で生活している世帯が多く、支援が必要なケース発見及び介入が難しい。 ・マンション居住高齢者や既存の地域活動に参加していない方の実態把握が難しく、早期発見・介入のために多様な関係機関とのネットワーク構築が必要である。	
対象	住民、マンション管理会社・管理組合、郵便局、医療機関、民生委員、地域福祉コーディネーター等	
地域特性	・担当圏域は梅田周辺の6地域で高層マンション、商業エリア、古い町並みが混在した地域である。北区人口の9割がマンション等での生活となっており、梅田東・済美・堂島・中之島地域の高経年のマンション等では住人の高齢化が進んでいる。特に扇町市営住宅の高齢化率は非常に高い。 ・担当6地域では高齢者人口や地域活動参加による予防意識に差があり、梅田東・済美・北天満地域では高齢者も多く、百歳体操やふれあい喫茶、食事サービスなどの地域活動も活発である。堂島・中之島地域は合同で百歳体操やふれあい喫茶等を実施しているが、中之島地域からの参加者は少ない。曽根崎地域は高齢者人口が少なく地域活動自体が少ないが、コミュニティセンターが新規移転し新たな活動が検討されている。	
活動目標	・潜在化する高齢者のニーズ発見のため、マンション管理人室をはじめ、高齢者の利用が多い郵便局や医療機関へ総合相談窓口（ランチ）（以下「ランチ」という）の周知を行う。 ・扇町市営住宅の高齢者の見守り活動継続について、北区地域包括支援センター（以下「包括」という）、民生委員、地域福祉コーディネーターと検討実施する。	
活動内容 (具体的取組み)	1.高齢者支援のネットワーク構築 ①マンションアプローチ ・過去に個別相談があったマンションや、築10年以上経過しているマンション・アパート等を中心に訪問し、ランチの役割説明、「ランチからのお知らせ（※資料1・2）」「ランチチラシ（※資料3）」の掲示や配架依頼、住人の近況確認などを行った。 訪問件数：24棟 延べ41回 ・マンション単位で開催されている百歳体操に定期的に参加し、管理人・住人との関係づくりを継続中。 ・過去に相談があった管理人の居ないハイツ・アパート・マンションへ「ランチチラシ」のポスティング実施。 ・梅田東地域のマンション集会所にて講演会「介護保険制度」「ランチのご案内」を開催（※資料4・5）。全2回、合計30名の参加。 ②郵便局訪問 R2年度から実施している郵便局訪問を継続した。認知症高齢者や潜在的ニーズの早期発見のため、高齢者が多く訪れる郵便局を訪問し、「ランチからのお知らせ」や「ランチチラシ」の提供と設置依頼を行った。周知を継続的に行うことで局員との相談ネットワーク構築を目指している。 訪問件数：5局 延べ7回 ③医療機関訪問 総合相談を通じて高齢者が通院している診療所・病院をリストアップし、ランチへ直接相談がもらえるよう「ランチチラシ」を配布し周知活動を行った。 訪問件数：10件 延べ12回 ④地域関係者とのネットワーク構築と高齢者実態把握 ・済美、北天満民生委員協議会、中之島役員会に参加して情報交換 ・梅田東、北天満、済美のふれあい喫茶、食事サービスにて女性会、地域福祉コーディネーター、住民と交流 ・梅田東、北天満、済美の百歳体操前に血圧測定・健康相談を実施 ・堂島、中之島の10分脳活＆出張相談 2.北天満小地域ケア会議（扇町市営住宅） ・全2回開催、参加者は民生委員・地域福祉コーディネーター・北区包括・見守り相談室・ランチ。各機関で見守りしている状況の共有と活動方針の検討を行った。 ・敬老の日70歳以上世帯訪問を実施、9月に地区担当の民生委員とともに訪問、「ランチチラシ」を配布し周知活動を行った。33世帯39名を訪問。	

成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	1.個別ケースで定期的に見守りをしているマンションについては、管理人との関係性を継続でき、国民健康保険の加入や介護保険申請等に繋がられている。百歳体操に定期参加しているマンションでは、参加している住民から介護保険申請の相談を受けたり、管理人と気になる高齢者の情報共有ができるなど、周知の効果が出てきている。梅田東のマンションでは集会所で介護保険制度の説明やランチの活動に関する講演会を実施できた。郵便局員から個別ケースの相談は無かったが、中崎郵便局ではランチチラシやランチからのお知らせ、講演会ポスターなどを掲示してくれている。浪速郵便局では入口近くにランチチラシを配架、ランチからのお知らせも来局者の目の届くところに置いて頂いた。診療所・病院訪問では、昨年周知を行った所ではランチチラシを配架してくれていたり、支援者不在の高齢者に関して退院後の相談依頼を受けるなど、周知の効果は徐々に出ていていると感じた。地域活動や民生委員協議会へ参加することで、今年度は地域福祉コーディネーター、民生委員、地域住民からの相談が増加した。 2.北天満小地域ケア会議（市営住宅）では、敬老の日70歳以上世帯訪問により新たに定期的に訪問して見守りを行う対象者を発見することができた。また、民生委員、地域福祉コーディネーター、見守り相談室、北区包括、ランチで役割分担をして見守り継続を行っている。
今後の課題	・マンションアプローチや地域活動への参加、郵便局や医療機関への周知活動を継続し、様々な機関や関係者と連携し潜在的ニーズの発見に努める。 ・高齢者が多い扇町市営住宅の小地域ケア会議を継続し実態把握と見守り活動を行う。また北天満地域は相談件数が多いため、市営住宅に留まらず北天満地域全体の実態把握の方法を検討する必要がある。 ・曽根崎コミュニティセンターで地域活動がスタートしており、地域福祉コーディネーターも新たに配置されているため、定期的に参加して地域関係者や住民との関係づくりを行う。
※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月16日（火）
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☐ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	マンションアプローチ、地域活動や会議、郵便局や医療機関等、数多くの関係機関へ足を運び、顔の見える関係の構築が出来ている。このことにより、地域からの相談も増え個別ケースの支援にもつながっており評価できる。 法人の強みも生かし、保健分野とも協働した活動をすることで、効果的な相談支援ができている。 今後も積極的な地域活動を継続し、相談の少ない地域においても支援が必要なケースの発掘に努めてほしい。

課題対応取組み報告書

名称	豊崎地域総合相談窓口(ランチ)			
提出日	令和 6 年	6 月	8 日	

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒	地域や専門職とのつながり等	☐	社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐	認知症高齢者等の支援	☐	自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐	その他（ ）		
活動テーマ	生活不活発病予防 ～個人から地域へ			
地域ケア会議から 見えてきた課題	地域のつながりも少ない高齢者が認知症などにより金銭管理などができなくなる。 「介護する家族がいない」、「介護負担を担えない」、「関係が悪く支援する気がない」といった事情により家族の支援も望めないケースが見られる。 本人が施設入所を希望しない、介護保険サービスの利用に拒否感みだ介入が難しくなる。 孤立している高齢者が増加し、その発見も難しくなった。			
対象	本庄・豊崎地域の高齢者			
地域特性	本庄・豊崎両地域において流動人口が増加している。高齢化率自体は低くなっていても、高齢者人口は増えている。住民の9割がマンションに居住している。新たに大規模マンションも建設されており、住民の転入・転出も活発になっている。その為、地域のネットワークが分散しており、地域とのつながりが少ない高齢者が存在している。			
活動目標	高齢者自身のフレイル予防の意識を高めてもらう。 また地域への関心を高めてもらい、生活困難な高齢者の発見機能を強化する。			
活動内容 (具体的取組み)	前年に引き続き、新型コロナウイルス感染症流行期に行っていた自宅でもできる運動のチラシについて、大淀老人福祉センターや豊崎会館や本庄会館に掲示するとともに持ち帰り用に置かせていただいた。このチラシでは、デイサービス職員が実際に運動のやり方を説明している動画を撮影し、インターネットの動画配信サイトに登録したQRコードを掲載した。 UR都市機構のマンション自治会において、百歳体操を支援した。また、北区認知症初期集中支援チーム（以下「北区ハートフルオレンジチーム」という）の主催で、認知症予防を目的とした「運動習慣が認知症予防に効果的」といった内容の講演会を開催した。 本庄会館では、月ごとに開催されていたふれあい喫茶に併せ、地域の相談会を開催した。開催に併せ、周知のチラシを作成し地域の会館に貼り出したり、大規模マンションにポスティングを行った。 また、朝の登校児童の見守り隊に参加し、散歩している高齢者や出勤途中の住民に対して声掛けや相談会の案内を行った。相談会では、北区ハートフルオレンジチームとの連携が必要になるなど、深刻なケースの相談も寄せられた。 さらに、地域の食事会や百歳体操にも参加し、総合相談窓口（ランチ）の周知とともに熱中症や詐欺被害、虐待などについての注意喚起を行った。			
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	○昨年度までに作成した6種類の「自宅で取り組める運動」のチラシについて、ケアマネジャーを通して、自宅に引きこもりがちで体力に不安がある高齢者に対して配布を行った。「こんな風に運動したらいいの？」と興味を示していただいた。 ○UR都市機構のマンションの百歳体操については、集会場の広さの観点から、広く告知することはせず、一部の住民に対しての開催となった。認知症予防を目的とした講演会では、「運動と脳の関係」について話をさせていただいた。「日頃行っている運動は体だけではなく頭にもいいのね」との感想が寄せられた。 ○本庄地域相談会は、ふれあい喫茶と併せて、ほぼ毎月開催した。過去に支援していたが本人都合で支援が中断していた方や、「今は必要ないが今後に向けて介護保険について教えてほしい」と新規相談の方、といった方達、また入所する施設を探しているなど、普段なかなか相談に来られない方が相談に来られた。また相談会のチラシが各町会の掲示板に貼り出されるなど、地域資源として活用され始めるようになった。 ○朝の見守り隊への参加では、散歩していた高齢者や同居している高齢者を介護している家族に対して、相談会の告知を行った。また見守り隊の方達にも相談会への告知を行い、心配な様子的高齢者に対してもチラシを渡してもらうよう依頼した。見守り隊の方達からも「心配な高齢者」について情報が寄せられるようになった。			
今後の課題	高齢者に健康への意識を高めてもらう必要があり、百歳体操や認知症予防の講演、朝の声掛けや相談会を通して意識づけを継続的にやっていく必要がある。UR都市機構のマンションの百歳体操については今後も継続していきけるよう支援していく。 本庄地域の相談会については、今年度より土曜開催となり、多くの住民がより参加しやすくなった。ふれあい喫茶に参加されている方達にも積極的に声掛けを行い、周知を行っていく。また、大淀老人福祉センターや豊崎地域での活動に広げていきたい。 以前地域住民向けに施設内行っていた「健康チェア体操」について、再開させたい。			

※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 6 年 7 月 1 6 日 （火）
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☐ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議会 からの意見等を記載。	地域での相談会や、朝の見守り隊での活動を継続して行い、地域でのネットワーク構築や新たな相談にもつながっており評価できる。 法人の多職種とも連携して作成した、自宅で取り組める運動の動画やチラシは、引きこもりがちな高齢者へのアプローチのツールとしても、継続して活用している。 今後は、一部の地域で活発に行っている、見守り活動や相談会について、他地域にも発展できるよう期待する。